

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 巧文



■ 新市民病院の引き渡しを受けました

新市民病院の主棟が完成し、去る8月28日、業者から引き渡しを受けました。10月1日から新病院での診療を開始。その後、現病院の解体等を経て、来年4月1日、グランドオープンします。同時に、市内の医療関係者を対象にした24時間体制の院内保育も始めます。

一つの峠を越え、病院局長から次のような感想が届きました。「…市の職員は実に勤勉であると思います。思い起こせば、山陽市民病院との統合から今日に至るまで、市の職員はいろいろな場面で、懸命にがんばってくれ、ついに今回の新病院の引き渡しに至りました。特に今回の事業は、各地の工事の経費が30%以上も高騰し、加えて作業員不足の厳しい状況の中で、ほぼ予定に近い金額と期間で工事を仕上げたことは本当に見事です。院内のワーキング・グループとも協力し合い、清水建設と一緒にがんばってくれました。本当に頼もしい職員たちです。…」

■ 「読書活動」の成果が出ています

7月末の4日間、東京で開かれた「読書と体験の子どもキャンプ」に厚陽小6年生の児童2人が参加しました。「子どもの読書活動優秀実践校」として、平成24年度は厚狭小、25年度は赤崎小、26年度は厚陽小が、3年連続で文部科学大臣の表彰を受けていますが、その直近の受賞校を対象に、国が全国から児童約

100人を招待して開催しているものです。

キャンプは、国立オリンピック記念青少年総合センターでの野外炊飯、国立国会図書館・国会議事堂の見学、著名作家の講演や作家へのインタビュー、新聞記者の取材体験、読書新聞の作成等、盛りだくさんの内容でした。参加した児童は、「新聞を作る時のヒントを教えてもらいました。」「普通は体験できないことがたくさんでき、勉強になりました。」「大変有意義でした。」などと感想を述べているそうです。

本市では、平成23年度から全校に学校図書支援員を配置しましたが、その成果が出始めているようです。

■ 本市の児童は元気です

これも本市の児童の快挙の報告です。

児童絵画コンクール「我ら海の子展」で、須恵小6年生の石川真由さんが最高の賞である国土交通大臣賞を受賞しました。

～今年で42回目を迎える「我ら海の子展」は、日本を代表するアーティスト岡本太郎氏が昭和48年に創設し、それ以来、毎年開催している幼児・小学生を対象とした絵画コンクールです。命の起源でもあり、未だ謎も多い「海」について考えることで、想像力と可能性を伸ばすことを目的としています。～（報道発表から抜粋）

今年も全国からたくさんの作品が届き、応募総数は6,864点にも上ったそうです。全国一とは凄いですね。おめでとうございます。